

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

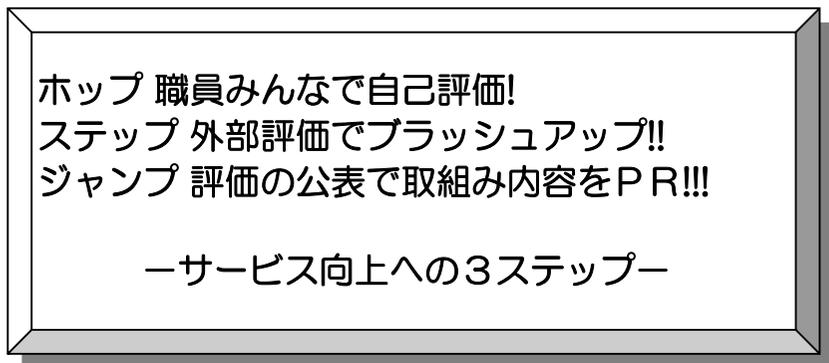
I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制



【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 9 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871400267
事業所名	グループホーム蒼月
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	井上 卓也
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 23 日

<p>【事業所理念】</p> <p>ひとりひとりの心に寄り添い、その人らしい毎日が過ごせ、笑顔あふれるホーム作りに努める。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>(前回の目標) ①サービス評価についての理解を深めて頂ける様に努める。 ②地域の自主防災組織の活動に参加させていただくように努める。 (その結果) ①運営推進会議や文書でサービス評価の意義や目的等に対する説明を行った。 ②コロナウィルス感染症予防対策の為、現在実施できていない。今後、緩和されたら地域の方をお願いしていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は田園地帯に囲まれ、建物からは四季折々の風景を見渡すことができる。地域住民から、「夜間街灯がないから真っ暗になる。子供たちの安全のためにも、事業所の電気をつけてほしい」などの要望が出され、事業所として、農繁期以外は地域のために外灯を点灯するなど、地域とのかかわりを大切にしている。また、現在コロナ禍において、面会制限を設けているため、家族の来訪が激減していることから、管理者等は電話連絡などの家族との連絡を密に図りながら、利用者と家族の関係を重視した支援にも取り組んでいる。さらに、訪問調査月の前月中旬から、県の感染対策の警戒レベルが緩和され、居室での10分程度の面会を再開し、利用者や家族に喜ばれている。加えて、日々の支援の中から、職員は何気ない一言を逃さず、利用者の思いが実現できるよう努めている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>1人ひとりに寄り添い、日常的に関わるように努めている。その中でふとした表情や言葉などを逃すことなく本人の意向や希望などの把握ができる様に努める。</p> <p>日々の関わりの中で、本人の嫌な表情や不機嫌になるようなことは避けている。</p> <p>来所頂いた時や、遠方におられる家族には定期的に連絡をして、本人の思いについてをお聞きして話し合っている。</p> <p>サービス担当者会議を開催して、出席者全員で本人の施設での生活の思いを整理し、ケアプランを作成して共有している。</p> <p>本人や家族、また職員同士でも話し合い、職員の思い込みや決めつけがないようにいろいろな方面から把握しようと努めている。</p>	◎	/	○	<p>日々の生活の中で、職員は利用者へ声をかけをして、「昔好きだったこと、していたこと」などの意見や希望を聞いている。また、言葉で表現できない利用者には、表情やしぐさなどから、思いなどを汲み取るよう努めている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>家族や本人との会話の中で、今までの生活歴や、暮らしぶりその他の生活習慣等は聞いている。病歴や今までのサービス利用状況など、以前通われていたかかりつけ医やサービス事業所からの情報も頂いている。</p> <p>身体的な行動可能状態や、状況理解の程度、生活の中でわかること、出来ることなど、1人ひとりの状態は把握できている。状況が変わってきた際には職員で情報や意見を共有している。</p> <p>夜間眠れなくて何度も居室から出てくる。将来のことを考え不安になる、家族のことを心配しているなど把握している。</p> <p>病状の進行度や精神的なものであるか、またその他の病気によるものか、排便状況や夜間の睡眠不足によるものか淋しきからきているのかを大体把握している。</p> <p>利用者の一日の生活リズムはケアプランに基づき24時間流れており、リズムも把握している。日々の変化にも気付けて対応している。</p>	/	/	○	<p>入居前に、職員が利用者の自宅のほか、病院や施設などに出向き、利用者や家族から生活歴などの情報の聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所や医療関係者からも、情報を聞くこともある。さらに、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くことも多く、把握した情報はアセスメントシート等に記録を残している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人や家族、また主治医の意向などを聞いて確認したうえで、いろいろな情報を確認し、本人の視点で検討している。</p> <p>サービス担当者会議で、その人にとって現在における必要な支援となるよう、出席者で意見を出し合い検討している。</p> <p>検討した内容に基づき、本人の思いや希望は何か、また実践可能なニーズなのかを明らかにしている。</p>	/	/	○	<p>月1回のケアカンファレンスを活用して、把握した情報をもとに全ての職員で話し合いをしている。また、主治医の意見を踏まえながら、利用者本人の視点に立つて考え、より良いサービスを検討している。</p>

愛媛県グループホーム蒼月

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	分かる方は本人の意向が一番に反映されるよう考え、理解が出来にくい方は家族や主治医の意向を盛り込んだ内容になっている。	/	/	/	利用者や家族から意見を聞くほか、主治医の指示や意見を聞き、月1回実施するケアカンファレンスで話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者の思いや意見を最優先に考えているものの、意見はあまり出されないため、日々の生活の場面で聞き取った意見を、計画に反映されるよう努めている。さらに、コロナ禍において、外出などに制限が設けられているため、利用者との触れ合いを大切にしたい支援にも取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人と職員は必ず会議に出席している。現在、コロナ感染対策のこともあり、家族には、毎回電話で意向を聞き、会議後報告、承諾して頂いている。出席者全員で意見を出して、反映した内容を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方は話の理解や日常の習慣、その他すべてのことが理解できないが、その時その瞬間の生活を楽しめる様に理解できる話し方をしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	現在はコロナ感染症対策もあり、協力体制はできていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録に介護計画の内容を記載しており、共有している。毎日見ることでも理解も深まり、また、毎日計画を実行できるよう努めている。	/	/	/	介護記録には短期目標と支援内容が印字され、サービスの実施記録時に、職員は印字された支援内容に沿って記録をすることができる。また、利用者が発した言葉や職員との会話も記録に残すように努めているものの、法人で記録様式が統一されているため、職員間でより記入しやすい介護記録の書式を検討している。さらに、日々支援の中で、職員間で利用者一人ひとりの気づきや支援内容の工夫など、口頭で話し合うことができているものの、記録に残すまでには至っていないため、今後は気づきやアイデアなどの話し合った内容を記録に残せるよう工夫することを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画にそってケアができていないのか職員間で確認し、出来ていない場合、その方にあてないケアなのか職員が実行していないのか原因を話し合い、見直しを行っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に利用者一人ひとりの記録をしている。ケアの実践内容や、その時の状態、気持ちなどが分かるような記録を心がけている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員の気づきや、工夫して行った事など結果まで記録して、次回の課題につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画の期間に沿って、又、状態の変化等があった場合はその時点で見直しを行っている。	/	/	/	要介護認定の期間を基本として、6か月に1回介護計画の見直しをしている。毎月、職員の意見を参考にしながら、計画作成者がモニタリングを行い、利用者の現状の確認をしている。また、退院後や転倒など、状況の変化があった場合には、関係者と相談しながら現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	短期の3カ月で見直しを行ってが、5月より短期が6カ月となり、月1回はモニタリングを行い、現状確認を行うようになった。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態変化があった場合は、随時本人や家族、主治医、その他の関係者に意見を聞き、見直しを行い現状に即した新たな計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	サービス担当者会議を定期的に行っている。また、緊急案件時にはその都度会議を行い課題の解決をしている。	/	/	/	毎月ケアカンファレンスや業務カンファレンスを実施し、職員間で話し合いをしている。また、事前に会議の日程や時間帯を調整して、全ての職員が参加することができる。さらに、緊急案件のある場合には、その日の出勤職員と休日の参加可能な職員に声をかけるなど、その都度話し合いの場を設けている。加えて、参加できない職員には、議事録の閲覧をもらうとともに、申し送りなどを活用して、管理者から計画の変更時などの重要事項を口頭で伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、気づきや情報、考えなどを活発に意見交換している。より良い支援方法が導き出せるよう、皆が前向きに意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	職員全員が参加できるよう、その時の状況により時間や日を工夫して開催している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成して、全員が閲覧して周知している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	業務日誌、申し送り、申し送り帳を活用して出来ている。	/	/	/	日々の申し送りのほか、申し送りノートや業務日誌、会議録を活用して情報共有をしている。また、職員の閲覧後には、日付と押印又は記名する仕組みづくりができており、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌、申し送り、申し送り帳記入を行い、周知できるよう努めている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	理解できる利用者とその日にしたい事を聞いて、できる限り叶えられるよう努めている。	/	/	/	日々の生活の様々な支援場面で、職員は利用者へ、「○○しませんか」などと声をかけ、利用者自ら選択できるよう支援している。また、職員は利用者一人ひとりに合わせて言葉を選びながら声かけを行うとともに、上手くいった場合には、職員間で共有することもできている。さらに、新聞広告を見てもらいながら、利用者に食べたい物を選んでもらったり、その日のメニューを考えてもらったりするなど、利用者の活き活きた言動や表情を引き出せるような雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	関わりや介助の際には、必ず「したい/たくない」を聞くように努めており、本人の同意を得てから行っている。自己決定する機会になっている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	コミュニケーションをとりながら関わり、それぞれの方にあった対応をしている。共同生活でお互いを思いあひながら、自己決定出来て納得した生活ができるよう努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	1人ひとりが自分のペースで生活されている。移動に介助が必要な方も、同意を得てから介助しており、本人のペースを大切にされた支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	昔の言葉や方言を用い、笑顔の引き出せる言葉掛けや雰囲気づくりをしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難な方もおられるが、表出する表情や会話により、本人の意向を読み取り介助を行い、把握に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	大声で本人を辱めるような声掛けを行わないように気をつけている。身だしなみなど、利用者の尊厳やプライバシーを大切にされた関わりが持てるよう、常に意識して行動している。会議においても常に敬う心を忘れないように話し合っている。	○	○	○	社内研修や勉強会を活用して、職員は「人権」や「尊厳」などを学ぶことができている。また、職員は意識して、利用者のプライバシーに配慮した声かけなどにも努めている。中には、利用者を子供扱いしたり、パッドを手に持ちながら、「おしっこ行こや」などとあからさまに声かけをする職員もいるため、管理者はその都度注意喚起をしている。さらに、居室への出入りの際には、職員は利用者へ声かけをしてから入室するなどの配慮にも努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	介助の声かけの際には、近寄って声をかけ、人前であからさまな誘導にならないよう対応を行っている。耳の聞こえにくい方には声が大きくなりながらであり気をつけている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴や排泄時は特に、不安や羞恥心を感じない様にプライバシーに配慮した介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	声かけ、ノックをかかさず行ってから、居室のドアを開けている。掃除などの際にも本人に確認してから入室している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止について理解しており、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生活リハビリの軽作業として、家事全般を一緒にしたり、料理方法などを教えていただいている。梅干しの漬け方、畑の作物の植え方など教えてもらい、おかげで上手にできたよと感謝を伝えている。	/	/	/	フロアには大中小のテーブルを置き、その時々利用者同士の関係性を考慮しながら、配席を替えるなどの対応に努めている。また、トラブルになりそうな場合には、職員が間に入り、早期のトラブル回避の対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	気の合う利用者同士がともに支えあって、関わりを深めておられる。また、できる方ができない方を思いやられ、優しく見守ってくださったり、できたときに拍手されたりという場面も見られる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	トラブルが起こりやすい利用者には、話題が変わるよう関わったり、それぞれに距離を開けている。その状況により、席替えをしたり、孤立しがちな方には職員が関わることで他の利用者も会話に入り、皆で交わる機会になっている。仲の良い方向同士が関係を深めておられる様子を見守っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	一方が常に勝ち、皆が合っている状態が続いている。理解を得て、解消に近づくよう努めている。当事者のいるところでさり気なく叱られた人が悪いのではないことを伝える。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	来所時の家族との会話を密にして把握に努めている。遠方の家族には最初に電話をして聞いている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人との会話で分かっていることもあるが、大部分はわからない。本人は忘れている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	現在はコロナ感染症対策として行っていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	現在はコロナ感染症対策として行っていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	現在はコロナ感染症対策として行っていない。	×	○	○	コロナ禍以前は、2か月に1回程度、外食や季節に応じた花見などに出かけることができていた。現在のコロナ禍において、法人の方針もあり、事業所では外出制限を設けているため、外出行事を行うことはできていない。利用者の希望があった場合には、感染状況を見計らいながら、馴染みの美容室や夫のお墓参りに出かけられるよう支援している。また、重度の利用者にも、居室から毎日出てもらうほか、ベランダや庭に出て、外気浴をすることができている。さらに、外出が激減しているため、朝の体操のほか、廊下等を歩行するようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	現在はコロナ感染症対策として行っていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	現在はコロナ感染症対策として行っていない。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	現在はコロナ感染症対策として行っていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の心理症状について、施設内勉強会で理解して、穏やかに対応しているが、取り除くケアまでは十分にできていない。精神疾患のある方などは次に何が起こるなどが分かる様になりバニック状態になるのを未然に防いでいる。				日々の生活の中で、歩行訓練や体操など、可能な範囲でリハビリを行い、心身機能の維持に努めている。また、利用者ができることやできそうなことは、なるべく本人に任せてしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	体操や立ち上がり訓練をして、筋力低下や平衡感覚の悪化を防いでいる。個別メニューを組み、毎日行っている方もいる。嚥下状態の悪い方には姿勢を正し少し前傾するように食事前に直している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	家事など手伝って頂いているが、手順が分からなかった時には、一緒に職員が行ったり、声かけし自分で最後まで出来るよう支援したりしている。また、入浴前の着替えの選択や、タンスの整理を一緒に行う等できる方にはして頂いている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	1人ひとりの生活歴や、現在の有する力を踏まえて、その方に合った軽作業や、レクリエーションなどを提案している。また希望されることで出来ることは同意を得て一緒に行っている。				もやしの芽取りやゴボウ削ぎなどの調理の下ごしらえ、台拭き、タオルたたみ、おしぼり巻きなど、日々の生活の中で、利用者の役割や出番づくりをしている。また、馴染みの梅干しづくりを利用者と一緒に行っている。さらに、地域の小学校や保育所等との交流もできていたが、コロナ禍において、交流をすることが激減したため、職員は利用者との触れ合いを重視した支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	日常的にホームの中での手伝いをして頂き、役割を持つことで自信や喜びになる様に	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方から案内をいただいた敬老会・運動会など出掛ける事を楽しみにしておられる。楽しめるよう準備など行い参加支援している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	おしゃれをされる方、身だしなみを整える方、気にならない方など様々に自己表現をされている。出来ない方は整容介助をして見劣りの無いよう支援している。				希望する利用者には、重度な状態であっても、夜間にはパジャマに着替える支援をしている。寝衣に着替えられない利用者にも、ズボンのみを履き替えてもらうこともある。また、訪問調査日には整容の乱れなどは見られず、清潔な衣類を着用している様子を見ることができた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	少し介助が必要な方には、好みに選んで頂けるよう服を数枚お見せして着ていただいている。本人の物が無い場合、余っているものの中から選んでもらい着ていただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	季節に合った服装から、本人に似合いそうな服を選んで更衣介助をしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の際には、ちぐはぐにならない様に服を用意している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	食べこぼしや口のまわりの汚れは、穏やかに声かけし気なくふき取っている。寝癖や、ボタンの掛け違い、履物の汚れなども汚れたときに対応している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	希望される方は、本人家族が連れて行っておられる。施設専属の散髪店があり、施設訪問にて散髪して頂いている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	本人の体調や顔色など見ながら、整容できるよう支援している。本人の好みやその人らしさの追求は出来ないこともある。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	食事は楽しみであり、栄養摂取の大切な行為であり、安全においしく食べられるよう配慮している。				法人には献立委員会があり、今までは事業所持ち回りで献立を作成していたが、訪問調査月の翌月の令和3年12月から、各事業所で、利用者の好みのメニューなどを確認しながら献立作成を予定している。食材は、業者に発注をして配達をしてもらっている。ゴボウ削ぎやもやしの芽取りなどの調理の下ごしらえ、台拭きなどを利用者の手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。事業所として、利用者の嗜好やアレルギーの有無などを把握しており、職員はその都度対応をしている。また、新聞広告を見て、「巻き寿司が食べたい」などの意見を取り入れ、職員が利用者と一緒に巻き寿司を作るなどの柔軟な対応もしている。さらに、職員は利用者と同じ食卓を囲み、利用者の様子を確認しながら一緒に食事を摂ることができている。調理前には、利用者はフロアで過ごしており、調理の匂いや音を感じることもできている。加えて、管理者は栄養士の資格を持っており、献立のバランスなど、いつでもアドバイスがもらえる状況となっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物・献立作り・食材選びは職員がしている。調理や後片付けは利用者と一緒にやっていただいている。買い物はそれぞれ専門の業者に委託し配達をしてもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理や後片付けを一緒にして頂く、皆さん活気が出て自分の役割と認識されている。自信や達成感を感じておられる様子が見られる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者は、食材に苦手なものがある方や、鯖アレルギーの方がいる。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	誕生会にはどの利用者も大好きな刺身と刺身を食べて祝い膳にしている。タケノコやワラビ、イチゴやミカンなども提供して季節感を感じていただいている。おやつには希望を聞きほたまちやシバ餅と一緒に作り過程も楽しみにされている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼をしないまま飲み込む方や、義歯の無い方にはキザミ食を提供している。全てを混ぜるのではなく、食材ごとに切り盛り付けの工夫をしている。便秘の方には水分を多く摂り、運動支援をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人の茶碗や湯飲み箸があり、使い慣れた使いやすいものを使用している。				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	職員も同じ食卓と一緒に食事している。1人ひとりの様子を見守り、全て介助するのではなく、必要な時にサポートを行っている。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチンがフロアの中心にあり、調理中の音やにおいも感じる事ができる。食事の会話になり、待ち遠しく待って頂いている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事・水分チェック表を付けて、毎食の摂取量を記録して、食べられる量や水分量などを把握している。1日を通じて栄養を確保できている。(献立は栄養士がたてたものではない)				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	△	毎日大体一定量の食事を摂り水分摂取量が少ない時はこまめに補給して、1日1000cc飲用出来ている。おやつ時にお茶の飲水ができない方には甘い飲み物や入浴後にはポカリスエットを提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員で献立のバランスを話し合い、施設長に許可をいただき偏りがないよう変更している。社内に管理栄養士がおり、必要な場合は指示してもらう事は出来るが、アドバイスを受けた事が無い。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器乾燥機を使い調理器具の清潔を保っている。食材はほぼ毎日配達して頂いており、安全で新鮮な食材を使用している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	施設内勉強会を重ね、口腔ケアの大切さ。誤嚥性肺炎の防止につながる事を理解しており、毎食後口腔ケアできるよう支援している。	/	/	/	事業所では、義歯の有無などの利用者の口腔内の健康状況を把握しているものの、詳細な記録を残すことまではできていない。歯磨きは、毎食後に利用者は各居室で行い、自分で歯磨きができる利用者には任せているため、口腔内の状況の確認まではできていない。また、事業所として、訪問調査月から口腔チェックリストの活用を予定しており、定期的に全ての利用者の口腔内の状況が把握できることを期待したい。さらに、義歯の不具合などの訴えがあった場合には、歯科医に相談しながら対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの介助の必要な方や、舌苔が付き取り除くのにも困難な方がいるが毎食後の口腔ケアで補っている。義歯の状態等の把握は出来ている。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	個人的に歯科受診した際に、ケア方法を指導して頂き、職員に周知している。他の方にも生かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後職員が洗浄を行い、定期的に洗浄剤を使用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	1日1回は声かけを行い、自分で口腔ケアされる方の汚れや臭いが生じないように支援している。歯肉炎を何度も起こす方がいるが職員に口の中を見せられない為十分に把握できていない。そのことを家族には伝えている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	本人より訴えがあったり、職員が気付いた時に、家族に連絡して歯科受診をしている。遠方の家族には職員が受診介助をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	認知症が進行し、漏れに気づかない場合やペーパーを挟んでいる場合、紙パンツの使い始めのタイミングを間違えないように支援している。(進行しすぎると使用を拒否することが多い)	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、排泄状況を確認しながら、声かけやトイレ誘導などの支援をしている。ほとんどの利用者が、日中を含めて紙パンツを使用しており、職員は時間帯によりパッドの種類を使い分けるなどの工夫もしている。また、声かけなどを行うことで、布パンツで過ごすことができていない利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	運動不足や腰部で身体が二つに折れ、足も伸びない状況に身体が変形しているため腹部マッサージも行いにくい。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を活用して、習慣やパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	△	認知症により本人の訴えがない方の誘導が難しいが、それぞれの方に適したおむつの使用ができていない。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	要因や誘因を考え、取り組み、改善が見え始めた方もいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンは把握しており、本人の羞恥心や尊厳などを十分に考慮した対応を心掛けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	オムツ使用には、本人に説明して納得して頂いたうえで、家族に連絡し説明している。同意を得て本人の好みや、自分で管理できるか見極めながら支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の理解力や排泄時の不快感等、適時使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	トイレ誘導や腹部マッサージを行い、排便を促すが、利用者の状況により薬に頼った取り組みとなっている。(薬を減らしたい)	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者に入浴の希望を聞いて、入浴して頂いている。	/	◎	/	利用者は、3日に1回入浴できるよう支援している。事業所では、「入浴時間は、日中ならいつでも入れるよ」と利用者伝えていたものの、希望がないために午前中の時間帯に入浴支援を実施している。また、利用者の希望に応じて、入浴の順番や湯船に浸かる時間など、柔軟な対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	湯船にゆっくり入れる時間を作り、危険の無いよう見守りを行いながら入浴している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で入浴希望される方が、5名おられ、一部介助は行っても本人の力で清潔維持出来る。危険の無いよう声かけを行い安心して入浴されている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	現在、強い入浴拒否の方がおられず、原因や理由を理解して、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタル測定を行い、入浴の可否を見極め、入浴後は水分補給と、様子観察を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	1人ひとりの睡眠パターンを把握している。眠れなくて起きてこられる方がいるが眠れる場所で休んでもらうため居間で過ごされる事もある。	/	/	/	現在、事業所には眼剤を服用している1名の利用者がいるものの、全ての利用者は夜間に良眠することができている。また、夜間に不眠を訴える利用者はおらず、落ち着いた状態が続いている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	将来の不安や身体状況の悪化によるもの(貧血) 前者は話をすることで心が満たされ、後者は医療との連携を行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	以前は睡眠導入剤を使用していた方もあったが、現在はやめている。本人希望により服用なく休まれている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	各自で昼寝をしたい方は、個別に休まれている。介助が必要な方は、午後、ベッドでの休息を取るよう支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	各担当者が家族に定期的に電話をして状況を連絡したり、お手紙を書いたりしている。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	年賀状の記入を声かけ見守りして、出す事ができた方がおられる。電話も横に付き添いかけられる方もおられる。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話をかけたいたとの訴えがある方も、気兼ねなくかけていただいている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙が届く方の部屋に貼って利用者に見ていただいている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族に理解して頂いており、電話にも気持ちよく対応して頂いている。家族からも手紙など届いているがプラン送付時をお願いしたい。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	基本的にはお金の管理はホームの金庫で預かり、必要に応じて出金し、小遣い帳に記帳して管理している。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	施設内の自動販売機でジュースを自由に購入している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	外出レクリエーションでは、先方に同様の連絡を行い、理解や協力をいただき、ゆつくりと店内を見て回る事ができているが、現在は外出できていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	意思表示のできる方全員に希望を聞き、希望されている方は現金の所持をされている。ジュースを購入する際には、危険や間違いが無いよう付き添いしている。お使いを頼まれる方に、都度対応して、支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	所持されている方は自己責任で管理してもらっている。家族も了承されている。お金を使用する際は職員が把握できており、本人に確認しながら購入されている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	お小遣いを預かっており、管理方法や家族への報告などルールが明確に決まっており、本人・家族も同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々のニーズに対応して、職員や管理者に報告・相談をして柔軟に対応している。	◎	/	◎	現在のコロナ禍において外出制限等はあるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の希望に応じて、対応している。また、「お墓参り、美容室に行きたい」など、利用者や家族の希望には、柔軟な対応に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物周囲の門を閉めることなく、建物の玄関も、日中は施錠しておらず気軽に入出入りができる状態である。夜間は玄関施錠している。	◎	◎	○	事業所の玄関先には大きな樹木が植えられ、自然豊かな環境となっている。また、車で来訪する場合にも、玄関先まで行けるようになっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共用の空間には、利用者やレクリエーション時に作った作品や、季節を感じる飾りつけをしている。家庭的で、温かみのある空間作りを目指して取り組んでいる。	◎	○	○	フロアには畳スペースがあり、訪問調査日にもスペースに置かれた食台を活用して、昼食を摂っている様子を見ることができた。また、事業所内は掃除や消毒などが行き届き、清潔感のある空間となっている。さらに、季節の生花が生けられているほか、廊下の壁には利用者の日々の様子を撮影した写真を掲示している。さらに、利用者の今年の目標も一緒に掲示されている様子を確認することができた。加えて、事業所の窓からは外の田園風景が見え、四季の移り変わりを感じることもできる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	田園の中に施設があり、不快な音など無く生活出来ている。トイレでの排泄介助時には扉を開けて、音や臭いが行かない様に配慮している。朝・夕に職員が掃除を行い、清潔にしている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	近所の方が提供して頂いた畑を作っており、野菜や草の具合などを心配して、外出する理由になっており、食生活や、季節感を感じている。草引きができる方には一緒に、心地よく働けるよう働きかけている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う方と隣の席で過ごせるよう、席の配置を配慮している。自分で移動できる方は、自由に自室で過ごされている。廊下側に椅子を置き人の動きを見ながらくつろぐことができる。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	共用空間からトイレや浴室の内部はドアで仕切られ見えない構造になっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に、自宅より使い慣れたものを本人・家族が用意されたものを使用している。本人から希望のあった場合は、家族に連絡し用意している。位牌や仏壇を持ち込まれている方もある。	○		○	居室には洗面台があり、いつも使用している櫛が置かれ、生活感をうかがうことができた。居室には、馴染みの物などを持ち込むことができ、テレビやイス、シルバーカーなどが置かれ、利用者に合わせて空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	家事ができる方には、軽作業として様々な事をして頂けるよう配慮している。排泄感覚にある方には、声かけをして、自力排泄・介助などしている。			○	排泄後の処理を自分でできるようトイレ内には、「ここをおして」と分かりやすく表示している。また、利用者の個人の物と分かるように、杖には鈴を付けるなどの工夫もしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	入浴時に新しい着替えか脱いだものか分からなくて、脱いだものをまた着てしまう方には、それを片付けて新しい着替えだけにして、不安や混乱、失敗がないように工夫している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	趣味の色鉛筆や、ほうき、新聞、台拭き、裁縫道具など、自由に手に取り使用されている。お茶は本人が希望されると、いつでも用意して渡している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	今まで生活している場所を離れて、生活されている利用者が、鍵をかけた閉鎖感により、あきらめ・気力の損失、心理的不安を感じないよう、また、家族や地域の人についていつでも来ていただけるよう、施錠していない。夜間は施錠し安心して眠れるように配慮している。	◎	◎	◎	入社時の新人研修で接遇などを学ぶとともに、業務カンファレンスを活用して、日中に居室やユニットの出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を確認している。また、事業所では夜間のみ防犯のため、玄関等の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	帰宅願望のある方が出ようとしたが、見守りや気分転換のための散歩等を繰り返し、落ち着いてきている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	現在、日中は施錠しておりません。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者1人ひとりの病歴や現病、留意事項など、個別ファイルや申し送りやケアカンファレンスなど行い、把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者1人ひとりをしっかり見守り、身体状態の変化や異常を早期に発見できるように注意している。変化や異常のサインを介護記録に残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医の往診・医療連携の看護職の際には、現状報告を行い気軽に相談をしている。都度、気になる時は電話での相談・対応でき、重度化の防止や適切な入院につなげている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	ほとんどの方が訪問診療できる主治医の受診を希望されている。特殊な病気や他科受診希望は利用者家族が同行している。希望する医療機関へ受診している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入所時に主治医や医療連携の説明を行い、同意を得ている。本人希望のかかりつけ医への受診支援も行っている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院が必要になった場合は、家族に連絡して同意(事後の場合あり)を得て受診している。また、結果を報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際には、現状の報告、選択内容の提案などストレスや負担を軽減できる内容がある場合は、都度、情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	治療内容や退院予定など、安心して入院できるよう電話や面会を行い、病院関係者との情報交換や相談を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力医療機関の神南診療所との関係は良好に保たれている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日々の気づきや知り得た情報など、職場内の看護職に伝えて相談している。訪問看護師が来た際にも報告し、相談・対応して頂いている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護職や訪問看護師、協力医療機関に24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた対応ができるよう見守り、申し送りなど行っている。早期発見・治療につなげるよう努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	利用者が使用する薬の薬情報提供書を確認し、用法や用量について理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう、朝・昼・夕に分けて用意し、名前の確認、飲み込みまで確認し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の、本人の状態の様子観察し異常が無いか確認している。また、周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等がないかの確認を行っている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬後の本人の状態や経過の変化などを記録し、医師や看護職に報告・相談している。対応が必要の場合は家族へ報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合や終末期について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	事業所には、「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明し、意向を確認している。利用者が重度化や終末期の支援が必要になった場合には、利用者や家族等だけではなく、職員、かかりつけ医、医療機関等の関係者を交えて話し合い、方針を共有している。また、法人の代表者が医師であり、ほぼ毎日事業所に来所しているため、その都度話し合いが持てる環境となっている。さらに、事業所では多くの看取り介護を支援しているものの、病院や他の施設に転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化、終末期について、職員、協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	終末期の利用者については、状態の変化があるたびにミニカンファを行い状態に応じたケアが出来る様に対応している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	本人や家族等に施設の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の利用者に最後まで口から食べることが目標に支援し家族にも喜ばれた。家族や協力医療機関や訪問看護と連携を図りながら、チームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等への心情の理解、家族間の複雑な人間関係があり、それを吐露された心の痛みに精神面での支え等を行い、心理的支援になるよう努めた。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等、具体的な予防策、早期発見、早期対応策等は完全に出来ているとは言えない。感染時期前には勉強会を開き対策を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染時期の前に勉強会を開いている。ガウン等、準備は出来ている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	関連施設から情報を共有している。感染発生情報をキャッチできる。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	関連施設から情報を共有している。感染発生情報をキャッチしたら速やかに対応できる。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	利用者や職員は、手洗いやうがいなども徹底して行っている。来訪者へ出入り口に消毒液とマスクを設置しているが、感染時期以外は声かけをした事が無く、来訪者任せになっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の来所時や、遠方の方には電話をして利用者の状態を報告し会話を多くして、喜怒哀楽をともししている。協力関係はできている。				コロナ禍以前は、年2回家族会を実施して、お花見や納涼祭に多くの家族の参加協力を得て、交流を図ることができていた。現在のコロナ禍において、家族会を実施することができないため、家族には電話連絡時やお小遣い持参時などを活用して、職員から利用者の生活の様子分かるように報告をしている。管理者等は、コロナ禍の収束後には面会や家族会の再開を予定するとともに、県の感染対策の警戒レベルが緩和され、居室での10分程度の面会を再開し、利用者や家族に喜ばれている。また、毎月事業所便りの「蒼い月」を発行して、事業所内の様子を伝えるとともに、スナップ写真や手紙を添えて、送付することもある。また、事業所の事柄等は、手紙を書いてお知らせをしている。さらに、面会時や電話連絡時を活用して、職員は家族から気軽に相談できるような環境づくりにも努めている。今後管理者等はタブレットを活用しながら、オンラインやSNSで情報を伝えることも検討をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるように、お茶の接待をしている。職員から声をかけて話しやすい雰囲気づくりや、家族関係再構築の支援を行っている。来やすい雰囲気となるよう努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会(花見・納涼祭)の開催を行い、積極的に参加の声かけを行っている。現在ではできていない。			○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族の来所時に、日常の様子をお話している。来所する機会が少ない遠方の家族には、電話で定期的な電話や、都度電話をしている。毎月、「蒼い月新聞」を発行し、ひと月の様子写真と写真を掲載して送付している。	◎	◎		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	利用者担当職員が知りたい事や不安に感じている事の把握に努めており、具体的内容の報告を行っている。家族の問い合わせに何でもわかる言葉で対応している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	感情的になり話ができにくい方にも、穏やかに接することを続ける事でだんだんと変わってきている。姉弟関係の再構築ができた。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	処遇改善手当ての問題で契約変更を行うが、理解・協力を得ている。			○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	利用者や家族が一堂に会することはあるが、交流できる状況は作れていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	現在の状態を連絡し、起こりうるリスクについて家族等に説明し、理解して頂いてから、抑圧感なく生活できるよう対応策を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡を担当者が行っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時、内容の変更した時々に理解・協力を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約書に退去についての文言が、体制作りがされている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定には事前に料金の設定理由を文書でお知らせし、同意いただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の方から協力をいただき事業所の設立当初から理解されている。	/	◎	/	事業所では地域の草刈りや、年2回の地区の清掃活動に参加協力をしている。また、事業所前が夜に暗かったため、地域住民からの要望を受けて、外灯を点灯している。さらに、コロナ禍以前は、地元の小学校や保育園との交流をすることもできていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	天気の良い日は外散歩に出掛け、出会う方との挨拶を必ず行い、会話が出来る時もある。地区の清掃活動に参加している。小学校の運動会観覧や、敬老会にも出席し日頃からの関係を深める働きかけを行っている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地区清掃に参加後、地域の参加者が施設外の草をボランティアで刈って下さったり、施設近くの畑を提供して下さい、畑作りをする事ができており、支援してくれる地域の方が増えてきている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	利用者を訪ねての訪問はある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶や散歩中のちょっとした会話はありますが、施設内へ立ち寄ってもらった事は無い。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	外出レクリエーションの際には、目的地の方に連絡をして、訪問を快く受けて下さり、楽しい行事を行っている。地区の祭りの訪問がある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	地域の方に畑を提供して頂いている。作物を育て、収穫を喜び楽しみにしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	同施設内のデイサービスに小学生のボランティアが来ていただいております、一緒に参加している。近隣のグループホームの方が、夏祭りには来ていただき、交流している。消防署より防災訓練時に指導して頂いている。月1回は外出レクを行い、店舗や公共施設・飲食店に行き協力を得ている。現在はできていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	利用者・利用者家族・民生委員・区長・他グループホームの有識者・市役所職員・の参加を得ている。	△	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、公民館長、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となったものの、参加メンバーに会議資料を送付したり、近隣の参加者には資料の手渡しをしたりしている。また、地域住民等に資料を手渡しした場合には、意見を聞いている。さらに、今回の外部評価の結果は、書面で報告することを予定としている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の取り組み状況、自己評価・外部評価の内容を、HPに出てから運営推進会議で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	出た意見や提案をサービス向上に生かしている。民生委員の方から、畑の提供をいただき、畑の耕作から行い、状態の報告をしている。なお、施設内会議や会社への報告を行い次回の運営推進会議で状況や結果等についての報告をしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	日程や時間帯については年度初めに周知している。参加者については今後も声かけを行い呼びかけていきたい。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	施設入口の掲示板に貼りだし、いつでも誰でも見れるよう公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	運営理念、当施設の介護理念をつくっている。そのうえで個人目標をつくり、日々業務に励んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	介護についての報告は細かく報告している。運営推進会議等でも地域に報告できている。	◎	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	代表者は職員個々の能力に応じた研修を受ける機会を与えて、より良いケアサービスが出来る様に人材育成に努めている。				医師である代表者は、ほぼ毎日利用者の往診等で事業所への来訪があり、職員は話しやすいと感じている。また、重要事柄は、法人の副部長に相談することもできる。さらに、職員は法人内の異動希望や希望休暇、夜勤の希望なども伝えることができる仕組みとなっている。加えて、法人内等で行う研修や事業所の勉強会等を活用し、職員のスキルアップにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	事業所ごとに実務を通しての教育は出来る。申し出があればOJTの機会を失わないように取り組みたい。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	勤務年数や経験年数にこだわらず、努力や実績を把握している。3年前より介護職員処遇改善手当支給により給与がUPし、本年度の法改正により更なるUPがあった。自分自身のスキルアップのための研修に積極的に参加している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県地域密着型サービス協会に加入しており毎月の研修会に参加し、同業者との交流は出来ている。またボランティア受け入れの会議に出席したり、他施設の運利推進会議においては管理者以外の職員も参加しネットワーク作りを努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	人間関係や通勤の問題など、代表者と相談して少しでもストレスの軽減に努めている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	外部研修や施設内研修に参加し正しい知識は理解している。現場では辱める言動(ハットや衣服の汚染等)や大声で指示するなど場合に寄っては虐待にあたることを会議や日常の会話で理解を深めている。				法人・事業所として、身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に職員間で話し合いや勉強会を実施している。委員会を中心として、職員には特にスピーチロックに注意するよう伝えている。また、職員は不適切なケアなどを発見した場合に、管理者や副ホーム長に報告する対応方法などを理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月1回業務カンファレンス・ケアカンファレンスを行い、日頃の気付きや解決に対する提案や報告等よく話し合っている。また、朝の夜勤者からの引継ぎ時に気になることや改善することなど、日常において何でも報告できるスタッフ同士の信頼関係は出来ている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	利用者の状態を職員全員で共有できるようにケアカンファレンスを行っている。また、介護記録や業務日誌等に記録することで防止に努めている。不審な点や理解ができないことはいつでも相談・報告ができる体制をとっている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	最低年2回は面接が実施され、本人の心身の状態や思っていることなど聞いている。また、日頃より職員の体調・表情・態度など注意を払い観察するように心がけている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部・外部研修にて理解を深めている。また、持ち帰って業務カンファレンスで話し合ったり状態が変化した利用者について対応は正しくできているのか、その対応がその人にとって適切なのかじっくりと話し合っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修では年1回は必ず身体拘束のことについてみんなで考えることが出来るように努めている。特に言葉での拘束については毎日のケアの中で意識しながら適切に対応するように努めている。3か月に1回は身体拘束委員会を開催し話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族等からの拘束や施設長の要望は無い。今後、その様な事があった時はその弊害について説明を行い、話し合いを重ねていきたい。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	運営推進会議において外部の講師にて勉強会を開催し、職員も参加した。しかし、成年後見制度は理解できていない者もあり、今後も研修に参加し内部の研修会で取り入れて日常生活支援事業や成年後見制度の違いや利点について理解を深めていきたい。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	今の所権利擁護に関する相談は受けていないが、今後社会的に必要な制度なので十分に理解しておきたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターは運営推進会議メンバーでもあり、又、利用者の後見人として司法書士の方がいる。なんでも相談できており、これからも関係を築いていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	施設内で対応の勉強会を行っている。対応マニュアルもあり、連絡先の一覧表も用意されており周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救命救急講習を年1回、全職員が受けており、実践力を身に付けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットを活用して職員間で回覧検討し、情報を周知徹底している。業務・ケアカンファレンスでもよく話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人ひとりの状態を、職員間で報告しあい、危険やリスクについて検討し共有して、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応はマニュアル作成してある。職員には折々に周知徹底に努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	昨年度、今年度現在までに苦情はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに回答し、よりよい関係づくりにつとめたい。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	市の介護相談訪問が3か月に1回はあり、利用者の意見を聞いたり様子を見て頂いたりしている。相談員からの意見は話し合い、また、全職員が情報を共有してケアに生かしている。運営推進会議にも毎回参加して頂いて意見や要望を伝えられる機会をつくらせている。			○	事業所には意見箱を設置しているものの、意見が入られたことはないため、日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞いている。また、家族からは、面会時や電話連絡時等を活用して、意見や要望を聞くよう努めている。さらに、管理者は職員と年2回個別面談を行い、意見や要望を聞くとともに、日頃から気になる職員にはその都度声をかけて、意見等を聞くようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	誰にでも苦情や相談を投函して頂けるように事業所入り口に意見箱を設置している。運営推進会議や、個人のカンファレンスでもその機会を設けている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会時や家族会は利用者や家族の意見を聞く良い機会となっている。また、ケアプランの見直しの際には必ず、本人、及び家族の要望を聞くように努めている。運営推進会議にも毎回参加している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	代表者は事業所を訪れて職員の要望や意見を直接聞いている。事業所敷地内の樹木による落葉で近隣住民に迷惑をかけるので対策を講じて欲しいと申し出たところ伐採することになった。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	業務・ケアカンファレンス等を利用し、職員が自由に発言する機会を設けている。また、日常的にも意見や提案を言いやすい環境作りにも努めている。管理者は管理者会議などを利用し、職員の意見や提案を報告し、その都度協議している。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全員で自己評価することで自分を見つめ直し、より良いサービスが提供できるよう気持ちを改める機会になっている。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、ユニット毎に管理者を中心に作成している。自己評価の作成は職員の振り返りを促すとともに、職員間で課題等の話し合いもできている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議で報告するとともに、家族に送付して状況を伝えている。さらに、取組み状況のモニターの協力までには至っていないため、今後は家族や会議の参加メンバーにサービスの評価の取組みを理解してもらうとともに、モニターの協力を呼びかけるなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	蒼月の出来ているところ、出来ていないところ、どうしてできていないのか評価について職員で話し合うことができた。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	利用者、家族はもちろん地域や外部の方々にも安心していただけるサービスのできる事業所になるように取り組みたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	目標達成計画が達成できるように努めたい。	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認したい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	さまざまな災害を想定した具体的なマニュアルがあり、職員のわかる場所に掲示し周知している。具体的に理解できるように努めている。				年2回、日中や夜間帯などを想定して、避難訓練を実施している。コロナ禍以前は、避難訓練に地元の消防団にも参加協力してもらい、合同訓練を実施することもできていた。また、消防団には運営推進会議の会議録を送付するとともに、災害時は協力してもらえるよう連携体制を整備している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	さまざまな時間帯を想定して、訓練を行っている。今後は突発的な訓練も考えている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食など定期的な点検を行っている。	○	消火設備、避難経路、保管している非常食など定期的な点検を行っている。避難経路については障害物を置かないように職員に周知徹底している。消火設備の定期点検は南予防災に委託している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	避難訓練の際には、地域の方や消防署・消防団に来ていただき指導や協力をしていただいております。協力・支援体制を確保している。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の避難訓練に参加し、共同訓練をしたいが、今の所できない。マニュアルの見直しなど今後の参考にしたい。				
		51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	以前は職員の経験、勉強不足から情報発信や啓発活動等取り組むことに不安があったが、今後は地域に発信することを積極的に考えていきたい。地域の行事に参加した際に雑談で相談に応じることがあり、必要性を感じた。		
b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。			△	入所申し込みや見学に来られた方から認知症の方への対応や介護の相談、悩みなど受けることがある。助言や傾聴することで笑顔で帰られた。		○	△	
c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)			△	コロナウイルス感染症予防対策としてできていない。				
d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。			△	地元の高校生のインターンシップの受け入れをしている。				
e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)			△	少しずつではあるがネットワークづくりに努めている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 9 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871400267
事業所名 (ユニット名)	グループホーム蒼月 3階
記入者(管理者) 氏名	栗林 淳美
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 23 日

<p>【事業所理念】</p> <p>ひとりひとりの心に寄り添い、その人らしい毎日が過ごせ、笑顔あふれるホーム作りに努める。</p>	<p>【前回の目標】</p> <p>(目標)</p> <p>①サービス評価についての理解を深めて頂ける様に努める。 ②地域の自主防災組織の活動に参加させていただくように努める。 (その結果)</p> <p>①運営推進会議や文書でサービス評価の意義や目的等に対する説明を行った。 ②コロナ感染症予防対策の為、現在実施できていない。今後、緩和されたら地域の方をお願いしていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は田園地帯に囲まれ、建物からは四季折々の風景を見渡すことができる。地域住民から、「夜間街灯がないから真っ暗になる。子供たちの安全のためにも、事業所の電気をつけてほしい」などの要望が出され、事業所として、農繁期以外は地域のために外灯を点灯するなど、地域とのかかわりを大切にしている。また、現在コロナ禍において、面会制限を設けているため、家族の来訪が激減していることから、管理者等は電話連絡などの家族との連絡を密に図りながら、利用者と家族の関係を重視した支援にも取り組んでいる。さらに、訪問調査月の前月中旬から、県の感染対策の警戒レベルが緩和され、居室での10分程度の面会を再開し、利用者や家族に喜ばれている。加えて、日々の支援の中から、職員は何気ない一言を逃さずに、利用者の思いが実現できるよう努めている。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃よりコミュニケーションをとり、本人の思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。	◎	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者へ声をかけをして、「昔好きだったこと、していたこと」などの意見や希望を聞いている。また、言葉で表現できない利用者には、表情やしぐさなどから、思いなどを汲み取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	把握が困難な利用者に対しては、ふとした時に出た言葉やしぐさなどを見逃さないように情報を共有し、本人の想いを理解できるように検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	利用者の日々の生活の様子や身体の状態など手紙や電話・面会時にお話してより深い理解に努めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	把握した情報は介護記録、業務日誌、又、申し送りノートに記録したり、話し合ったりして職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	1ヶ月に1回ケアカンファレンスと業務カンファレンスを開催しており、利用者への気づきや対応についても話し合いをし、フロア内での支援の方向性の確認を行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前調査の情報により、なじみの暮らし方や好みなどを把握するよう努めている。また、その後一緒に生活していく上で知り得た情報により、それまでの生活が少しでも継続でき、本人の心地の良い居場所になる様に努めている。	/	/	○	入居前に、職員が利用者の自宅のほか、病院や施設などに出向き、利用者や家族から生活歴などの情報の聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所や医療関係者からも、情報を聞くこともある。さらに、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くことも多く、把握した情報はアセスメントシート等に記録を残している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の様子やケアの実践・気づき等を介護記録に記入している。業務日誌等でスタッフ全員に情報を共有し、支援の方向性を確認し、その上で介護計画の見直しに活かすように努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の状態に応じて、その時々スタッフで話し合い、本人、家族に相談しながら、より良い状況での生活ができるように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日頃より色々なことを話し本人の想いを大切にできるように考慮している。又、不安や不安定になった時には関わり、特に傾聴することで気持ちが軽くなる様に配慮している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や経過観察記録などにより過ごし方や生活のリズム、変化などを把握できている。また、業務日誌で各フロア夜勤者が申し送りをしており、職員全員に情報の共有ができています。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	その方の立場になり真剣に耳を傾け、信頼関係を築けるように、又、職員間で話し合い、情報を共有して、本人の思いの把握につとめている。	/	/	○	月1回のケアカンファレンスを活用して、把握した情報をもとに全ての職員で話し合いをしている。また、主治医の意見を踏まえながら、利用者本人の視点に立つて考え、より良いサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人の状態を見たり、思いを聞いたりすることで、まず必要としている支援を見極める。その上で本人や家族が必要としていることのできる限り行うように努めている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ニーズとその背景・要因について介護計画第2表に記入している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	サービス担当者会には本人、家族にもできるだけ参加して頂き、本人、家族の思いを聞き、それをふまえて本人にとって必要なケアができるように意見を出し合い、介護計画を作成している。参加できない場合は事前に要望を聞き取り入れている。	/	/	/	利用者や家族から意見を聞くほか、主治医の指示や意見を聞き、月1回実施するケアカンファレンスで話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者の思いや意見を最優先に考えているものの、意見はあまり出されないため、日々の生活の場面で聞き取った意見を、計画に反映されるよう努めている。さらに、コロナ禍において、外出などに制限が設けられているため、利用者との触れ合いを大切にしたい支援にも取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	担当者会議では本人や家族の意見を尊重し、出来る事、出来ないこと、したいこと、どんなに暮らしたか等、思いや意向を反映した介護計画作成に努めている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度の利用者に対してもできる限りフロアで過ごして頂いている。また、居室入り口の戸を開けて、フロア内の様子がわかるようにしたり、度々訪問して声掛けを行ったりして心地良い空間で過ごせる様に心がけている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	今年度はコロナウイルス感染対策のため、外部とのふれあいがほとんどなかったが、家族の協力はその時に応じて頂いている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	日々の介護記録は介護計画に基づいて記載している。また、毎月のケアカンファレンスでは計画作成者がモニタリングをし、フロア内全員の介護計画について内容を検討している。	/	/	/	介護記録には短期目標と支援内容が印字され、サービスの実施記録時に、職員は印字された支援内容に沿って記録をすることができる。また、利用者が発した言葉や職員との会話も記録に残すように努めているものの、法人で記録様式が統一されているため、職員間でより記入しやすい介護記録の書式を検討している。さらに、日々支援の中で、職員間で利用者一人ひとりの気づきや支援内容の工夫など、口頭で話し合うことができているものの、記録に残すまでには至っていないため、今後は気づきやアイデアなどの話し合った内容を記録に残せるよう工夫することを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月、モニタリングをして、結果や対応についてフロア内でよく話し合い、毎日できるだけその方の思いにそった豊かな生活が送れるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録をするときには利用者の日々の生活の中での表情や行動などはもちろん変化が見られた時は特に詳しく記録するように心がけている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個人的に気づきや変化など記録し、それについてみんなで情報を共有し工夫やアイデアを話し合うことで望まれる支援になる様に努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月カンファレンスで現在の状態に介護計画に沿っているか検討している。そのうえで6か月で見直しを行っている。状態の変化などがあった時は期間内でも見直ししている。	/	/	/	要介護認定の期間を基本として、6か月に1回介護計画の見直しをしている。毎月、職員の意見を参考にしながら、計画作成者がモニタリングを行い、利用者の現状の確認をしている。また、退院後や転倒など、状況の変化があった場合には、関係者と相談しながら現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	変化が見られなくても毎月全員これで行っているのか、もつと的確な支援はないのかモニタリングしている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があった時には随時カンファレンスを開催している。本人、家族と今何が必要なのかよく話し合い、少しでも良い状態になる様な計画を目指している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的には月1回のカンファレンスを開催し、急用案件があるときには早急にカンファレンスを開催して、問題に取り組んでいる。	/	/	/	毎月ケアカンファレンスや業務カンファレンスを実施し、職員間で話し合いをしている。また、事前に会議の日程や時間帯を調整して、全ての職員が参加することができる。さらに、緊急案件のある場合には、その日の出勤職員と休日の参加可能な職員に声をかけるなど、その都度話し合いの場を設けている。加えて、参加できない職員には、議事録の閲覧をもらうとともに、申し送りなどを活用して、管理者から計画の変更時などの重要事項を口頭で伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員間は日頃よりなんでも自由に意見が言える関係ができており、日常的に利用者の状態について情報を交換し合っている。変化に気づいた場合はすぐに報告し話し合い、早急に対応できるように努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	ケアカンファレンスの期日を設定する場合は希望のない日にし、出来るだけ早めに決めている。現在はコロナ感染症予防のため、家族の参加はないが、要望があればそれに沿うようにしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	ケアカンファレンスの記録は毎回全職員に回覧し、情報を周知徹底している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	全員と毎日会うことが困難な勤務体制なため、情報の伝達には工夫をしている。出勤したらまず、業務日誌、申し送りノートに目を通す習慣がついている。	/	/	/	日々の申し送りのほか、申し送りノートや業務日誌、会議録を活用して情報共有をしている。また、職員の閲覧後には、日付と押印又は記名する仕組みづくりができており、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌や申し送りノートを活用し、確実に情報の伝達ができるようにしている。出勤したらすぐに目を通すように習慣づけている。回覧したら押印日付け記入をするようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日頃より関わり合いを大切にしており、利用者同士の会話とか何気ない言葉などを聞き逃すことなく、したいことをできるだけ叶えられるように努めている。				日々の生活の様々な支援場面で、職員は利用者へ、「○○しませんか」などと声をかけ、利用者自ら選択できるよう支援している。また、職員は利用者一人ひとりに合わせて言葉を選びながら声かけを行うとともに、上手くいった場合には、職員間で共有することもできている。さらに、新聞広告を見てもらいながら、利用者に食べたい物を選んでもらったり、その日のメニューを考えてもらったりするなど、利用者の活き活きした言動や表情を引き出せるような雰囲気づくりに努めている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴の準備と一緒に、好みの洋服を選ぶように促したり、行事に参加するときに個人個人に要望を聞いたうえで参加できるようにしている。何かをお願いする際にも本人の意志を確認している。			◎		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	介護者側で決めることはしないように努めている。介護者に心の余裕がないと自分のペースに合わせてしまうことがあるため、常日頃より心にゆとりを持つように努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床された方から朝食をとって頂くようにしている。昼食・夕食はみんな揃って開始するが終了は個人別にしている。お茶の温度の好みも取り入れている。入浴も本人の好みの温度や時間で気持ちよく入っていただけるように努めている。					
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者それぞれの性格や好みなど日頃より大切にできるように努めている。また、気持ちよくなるような言葉がけができる様配慮している。					◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	どんな些細な情報も共有し、話し合い、その方に笑顔になっていただけるように努める。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人生の先輩として尊重し、その方のプライバシーやプライドを傷付けることがないように慎重に言葉かけや対応をしている。表情を観察し、変化があった時には素直に謝ったり、修正をしながらより良い信頼関係が築けるように努めている。		○	○	社内研修や勉強会を活用して、職員は「人権」や「尊厳」などを学ぶことができている。また、職員は意識して、利用者のプライバシーに配慮した声かけなどにも努めている。中には、利用者を子供扱いしたり、パッドを手に持ちながら、「おしっこ行こや」などとあからさまに声かけをする職員もいるため、管理者はその都度注意喚起をしている。さらに、居室への出入りの際には、職員は利用者へ声かけをしてから入室するなどの配慮にも努めている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	今まで生活してこられた状況に合わせてるように気持ちを大切に、声掛けのタイミングや声の大きさなどに配慮してさりげなく寄り添う介護ができる様努めている。					
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	男性職員が苦手な方には、女性職員が介助することや、本人が自立を望まれる時はさりげなく見守っていく。信頼関係がとれると自然に拒否なく対応できている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室はそれぞれの家という考えで対応している。清掃やシーツ交換の際には、声掛け、確認を行っている。また、洗濯物の片付けなどは見守りながらして頂いている。					○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員が入社した時に契約を交わしている。また、折々に指導している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	相談したり、されたり、何でも話し合えるように日常的に信頼関係が築けるように努めている。いつも感謝の気持ちを忘れず笑顔での対応を心がけている。				フロアには大中小のテーブルを置き、その時々利用者同士の関係性を考慮しながら、配席を替えるなどの対応に努めている。また、トラブルになりそうな場合には、職員が間に入り、早期のトラブル回避の対応をしている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	それぞれの特性を把握し、そのうえで利用者同士で関わりあえ、支えあえるように見守りながら支援している。必要あるときは席替えなどで関係がうまくいくように配慮している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	職員一人一人が利用者の状態をよく見ており、その時々に応じて対応している。職員間で情報を共有し、意見や提案をまとめて、より良い状態になるような対応を心がけている。状況によっては環境を変えることで状況が好転することもある。					○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	とてもデリケートな問題なので慎重に対応するように心掛けている。あらゆる方面から情報を収集し、職員全員で対応について話し合う。本人の思いを受け止め、当事者や他の利用者へ不安や支障が生じないように努めている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	事前調査の際に、本人や家族から困っている事や不安な事、要望などに十分に耳を傾けて信頼関係を築けるように努めている。そのうえで人間関係など把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日頃より、ふれあいを大切にしている。なじみの関係が継続できるように支援に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	本人の身体の状態や希望などを考慮しながら、家族や地域の方々の協力を得ながら支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族や近所の方、併設のデイに来た知人・友人など、いつでも面会に来ていただいている。特に正月やお盆などは多いが日常的に来ていただいている。現在はコロナ感染症対策としてできていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	現在はコロナ感染症対策として外出はできていないが、季節を感じられるように心がけている。また、感染縮小期には周辺の散歩や地域の方から提供して頂いた畑に作物の様子を見に行くことが楽しみにしている。	×	○	○	コロナ禍以前は、2か月に1回程度、外食や季節に応じた花見などに出かけることができていた。現在のコロナ禍において、法人の方針もあり、事業所では外出制限を設けているため、外出行事を行うことはできていない。利用者の希望があった場合には、感染状況を見計らいながら、馴染みの美容室や夫のお墓参りに出かけられるよう支援している。また、重度の利用者にも、居室から毎日出てもらうほか、ベランダや庭に出て、外気浴をすることができている。さらに、外出が激減しているため、朝の体操のほか、廊下等を歩行するようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在はコロナウイルス感染症予防対策として外部との関りがなく、職員以外での外出支援は今のところない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者の体調を考慮し、散歩などで外気に触れて気分転換をはかって頂けるように努めている。現在はコロナ感染症対策として出来ていない。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	現在はコロナ感染症対策として出来ていないが、外出の希望があればできる限りそえるように心がけている。地域の方から景色の良いところを教えてくださいたいこともある				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部や外部の研修や勉強会によって認知症の理解はできている。様々な状態においても、より良い対応ができるように話し合いながら理解を深めるよう努めている。				日々の生活の中で、歩行訓練や体操など、可能な範囲でリハビリを行い、心身機能の維持に努めている。また、利用者ができることやできそうなことは、なるべく本人に任せてしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者一人ひとりの身体機能の特性を理解したうえで、みんなで話し合い支援の方向性を決定している。なるべく残存能力を生かせるように、見守りながらできないことは介助するようになっている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	余裕があるときは見守りながら待つ姿勢ができています。しかし時間に追われているときは介護者の立場での介助になっている場合がある。見守る姿勢を忘れないように心がけたい。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者個々の生活歴、好みなどを考慮し、残存能力を生かせるように心がけている。役割を持ち毎日張りのある生活をしていただきたい。				もやしの芽取りやゴボウ削ぎなどの調理の下ごしらえ、台拭き、タオルたたみ、おしぼり巻きなど、日々の生活の中で、利用者の役割や出番づくりをしている。また、馴染みの梅干しづくりを利用者と一緒に行っている。さらに、地域の小学校や保育所等との交流もできていたが、コロナ禍において、交流をすることが激減したため、職員は利用者との触れ合いを重視した支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その方にあった役割や楽しみごととは何かをみんなで話し合い、少しでも楽しく張り合いがある暮らしができるように支援していきたい。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事で年2回集会所の清掃作業や、保育園、小学校、公民館の行事に参加して楽しんでいただいている。現在はコロナ感染症対策として出来ていない。				

愛媛県グループホーム蒼月

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎朝、起床時の声掛けにおいて洗顔や整髪を行っているか見守り、出来ない方には介助している。衣類の汚れがあるときはそっと声掛けし、着替えていただいている。洋服も個人の好まれるものにしたし、自分で選んでもらったりしている。				希望する利用者には、重度な状態であっても、夜間にはパジャマに着替える支援をしている。寝衣に着替えられない利用者にも、ズボンのみを履き替えてもらうこともある。また、訪問調査日には整容の乱れなどは見られず、清潔な衣類を着用している様子を見ることができた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者それぞれの好みを大切にしている。ほとんどの家族の方が用意して下さっているが、家族からこちらで買って下さいと依頼された際には一緒に買い物に行って本人の好みを聞き出しながら選ぶこともある。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定の困難な方には家族から聞いたり、かかわることで自然と好みも理解できているため、本人の気持ちにそえるように努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その時々々の環境や温度等を考慮し、その人らしい服装で気持ちよく楽しんでいただけるように工夫している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者のプライドや羞恥心を傷付けたり、介護者に対して申し訳ないと思ったりされる事のないように本人に耳元でささやくなど、さりげない対応を心掛けている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	これまで行かれていた理容・美容店に行かれる方もあるが、訪問美容院を利用される方が多い。美容師の方ともなじみになっており会話も楽しませている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重篤な状態であっても声掛けをし、毎朝はもちろん日常的に整容や汚れなどに対して気を配っている。本人の気落ちの良い状態で過ごして頂けるように努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	出来ることは手伝って頂いている。畑でできた野菜を作り、調理し、頂くことで楽しみや食欲にもつながっている。				法人には献立委員会があり、今までは事業所持ち回りで献立を作成していたが、訪問調査月の翌月の令和3年12月から、各事業所で、利用者の好みのメニューなどを確認しながら献立作成を予定している。食材は、業者に発注をして配達してもらっている。ゴボウ削ぎやもやしの芽取りなどの調理の下ごしらえ、台拭きなどを利用者には手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。事業所として、利用者の嗜好やアレルギーの有無などを把握しており、職員はその都度対応をしている。また、新聞広告を見て、「巻き寿司が食べたい」などの意見を取り入れ、職員が利用者と一緒に巻き寿司を作るなどの柔軟な対応もしている。さらに、職員は利用者と同じ食卓を囲み、利用者の様子を確認しながら一緒に食事を摂ることができている。調理前には、利用者はフロアで過ごしており、調理の匂いや音を感じることもできている。加えて、管理者は栄養士の資格を持っており、献立のバランスなど、いつでもアドバイスがもらえる状況となっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立については系列の施設が2か月ごとに交代で作成している。事業所の献立委員が内容を確認し管理者と話し合いながら利用者の希望や行事に合わせた見直しを行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	野菜の下処理(もやしの根取り、ゴボウのささがけ、皮をむいたり、切ったり)、味見などできることは手伝って頂いている。その時はもちろん食事しながら「きれいにしてもらってありがとう。おかげで食べれます」と伝えるとうれしそうにされている。毎食後台拭きやお盆拭きも順番にして頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	好みや身体の状態については、入所事前調査にて把握しているが、状態が変わったと思われるときはよく観察して職員で情報共有し、さりげなく聞いたりすることで把握できるように努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	誕生日には本人の好物を盛り込んだ献立にしたり、季節の行事ごとに工夫をして楽しんでいただいている。家庭でできるようにおせちをお重に詰めたり、節分、ひな祭り、母の日、父の日など季節を感じながら、食事に楽しみが持てるように工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	現在ミキサー食、トロミ食の方はいないが、嚥下状態の良い方は数名おられ、硬いものは一口大にきって提供している。食欲が出るような盛り付けやいろどりに工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時家族に、これまで使われていたものを持参してもらうように伝えている。状態に応じて大きさや重さなどを考慮しながら変えている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は利用者と同じテーブルを囲み、特に嚥下の状態が良くない方はそばで状態をさりげなく観察しながら一緒に和やかに食事をするように努めている。「ゆっくり食べてね」「固いから気を付けて」など声をかけながら見守り、食べこぼしがあってもさりげなく対応するように気を配っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重篤な状態であっても少しでも意欲が出るような声掛けを心がけている。また、なるべくフロアで食事の雰囲気を感じながら食べられるように努める。他利用者による声掛けでの効果もある。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	身体の状態や体重の増減を考慮したうえで、その時々個人の状態や好みなどにより、食事量、水分量、栄養などが確保できるように努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量・水分量は毎食後や間食後に一人ひとりチェックし、経過観察記録にまとめて体調の管理を行っている。医師や医療連携ナースにも相談しながら低栄養や脱水にならないように気を配っている。1ヶ月に一回、又状態に応じて体重測定を行い体調の管理に気を配っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立委員と管理者が話し合いながら、栄養のバランスのとれた食事を提供できるように配慮している。それぞれの好みや咀嚼状況などを考慮し、調理法や切り方を変えるなど工夫している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材は前日に納品してもらい、その際にはきちんとチェックをしている。その日の食材は使い切るようにし、調理後は日光消毒及び食品乾燥機により殺菌消毒している。夕食後は台所内を消毒し衛生管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は外部や内部研修にて口腔ケアの重要性を理解している。食事がとれない場合も口腔ケアを実施している。	/	/	/	事業所では、義歯の有無などの利用者の口腔内の健康状況を把握しているものの、詳細な記録を残すことまではできていない。歯磨きは、毎食後に利用者は各居室で行い、自分で歯磨きができる利用者には任せているため、口腔内の状況の確認まではできていない。また、事業所として、訪問調査月から口腔チェックリストの活用を予定しており、定期的に全ての利用者の口腔内の状況が把握できることを期待したい。さらに、義歯の不具合などの訴えがあった場合には、歯科医に相談しながら対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯や歯、舌の状態については口腔ケアの時や日常での観察にて把握している。食事時の咀嚼、飲み込みなどの様子もさりげなく観察している。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医や歯科衛生士からの口腔ケアの正しい方法については学んでないが、研修において保健師からの指導があり日頃の口腔ケアに取り入れている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夕食後は必ず外して頂き、コップ内にて水又は洗浄剤での保存をして頂いている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後30分ほどゆったりと過ごされたのちに口腔ケアをして頂いている。自分で実施される方が多いので見守り、チェックを必ず行い、清潔保持に努めている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	利用者一人ひとりの咀嚼状態、義歯の不具合など食事時、口腔ケアの時など観察している。何か生じた場合は、歯科医院受診を本人、家族と相談し決めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	本人の尊厳や羞恥心に配慮しながら本人にとって一番良い方法を探していくことにしている。とてもデリケートなことであり、職員間で情報を共有しながら検討していく。モニタリングをして、少しでも改良が必要な場合はまた話し合う。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、排泄状況を確認しながら、声かけやトイレ誘導などの支援をしている。ほとんどの利用者が、日中を含めて紙パンツを使用しており、職員は時間帯によりパッドの種類を使い分けるなどの工夫もしている。また、声かけなどを行うことで、布パンツで過ごすことができていない利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	高齢者では慢性的な便秘症の方もおられ、十分な水分摂取、規則正しい食事・生活、繊維質食品の摂取、適度な運動、又、決まった時間にゆったりとトイレに座って頂くこと等日常的に気を配っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日、食事・水分・排泄・口腔ケア・服薬など(24時間)記入しており、一人ひとりのパターンは把握している。変化が見られた際には、気を付けて見守り、職員間で情報の共有ができるように気を付ける。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄パターンを把握できており、。本人の意志を尊重しながら、声掛けやトイレ誘導をして、なるべくトイレでの排泄ができるように支援している。状態に変化がある場合には職員間で情報を共有し、対応について話し合い、本人が安心できるように努める。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	何か困難な状態になった場合は小さな気づきを見逃さないようにし、一番本人が気持ち良い方法を検討していく。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用し、個々のパターンの把握はできている。身体の状態や服薬、食事の摂取などを考慮しながら声掛け、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	リハビリパンツや尿取りパッドを使用したり、夜間だけのポータルトイレの使用など、利用者の希望や状態に合わせて少しでも自立が促せるように努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	布パンツを使用している利用者もおり、一人ひとりの状態に合わせて支援している。体調や服薬、時間帯などを考慮してパッドの種類を変えて工夫している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	リハビリ体操で腸の動きがよくなる様な運動、呼吸などを取り入れている。又朝食後などゆったりとトイレに座る習慣をつけてもらっている。水分は食事や間食の際には、必ずコップ一杯の水分(お茶・紅茶など)を摂取して頂いている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	毎日いつでも入浴できるように準備している。3日に1回を目安に利用者の希望に応じている。それぞれの好みの温度や入浴時間など把握できており、気持ちよく入浴頂いている。	◎	/	○	利用者は、3日に1回入浴できるよう支援している。事業所では、「入浴時間は、日中ならいつでも入れるよ」と利用者伝えていたものの、希望がないために午前中の時間帯に入浴支援を実施している。また、利用者の希望に応じて、入浴の順番や湯船に浸かる時間など、柔軟な対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	好みの温度でゆったりと湯船につかり入浴して頂いている。声掛け、見守りを行い、お話し好きな方には話し相手になりくつろげるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	残存能力を生かして頂くようにできることはできるだけして頂くような支援を目指している。利用者の状態に応じて滑り止めマットやシャワーチェアなどを活用して安心して入浴できるように支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	相性の良い職員による声掛けとか、時間、タイミングなど原因を理解しながら気持ちよく入浴できるように工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には必ずバイタルチェックを実施しており、又皮膚の状態やつめ、頭皮、顔色、表情などの観察を行っている。入浴後はフロアにて水分補給をしながら過ごして頂き様子を観察できるように考慮している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	食事・水分・排泄チェック表で一人ひとりの生活パターンは把握している。夜勤者が21時、0時、3時に巡視して様子を観察記録している。	/	/	/	現在、事業所には眼剤を服用している1名の利用者がいるものの、全ての利用者は夜間に良眠することができている。また、夜間に不眠を訴える利用者はおらず、落ち着いた状態が続いている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	どんな様子なのか、職員で情報を共有し、考えを話し合っている。昼夜逆転であれば、日中レクリエーションの参加や声かけなどで眠らないように全員で取り組んでいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠剤はできるだけ使用しないように心がけている。使用する際には職員全員で話し合い、担当医とも相談しながら、必要があるのか、歩行状態など危険がないか検討している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼の間でも居室でも希望される時に自由に横になって休んで頂いている。また、起床や就寝について本人の生活習慣を大切にすよう努めている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望があればいつでも連絡できるように努めている。また、スタッフがはがきなど用意し、声掛けすることもある。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	利用者自身がどうしたいのかをよく話し合い、本人の納得のいくような支援ができるように努めている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	利用者とは日頃より関わり合う事で信頼関係が築けるように努めている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙を一緒に読んだり、そのことを話題にして思いを共有する事で理解しようと努める	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族や本人と納得のいくまで話し合っている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	基本的にはお金の管理はホームの金庫で預かり、必要に応じて出金し、小遣い帳に記帳して管理している。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日常的に買い物の機会はないが、必要な時にはまず家族に相談し、スタッフが同行し、相談しながら購入するようにしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	スタッフが同行し、事前に説明したり、見守ったりすることで安心して買い物は出来ている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人の希望があれば家族と相談して所持してもらっている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ほとんどの方は所持されておられず、必要な時は預かっている分より出金するようにされている。入所時によく本人・家族とはなしあっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	必要なものがあり購入する時は、事前に必ず家族に説明している。また、家族への毎月の小遣い帳(月末の)のコピーと領収書を翌月初めに送付し、確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族とその時々によく話し合い、利用者の思いを大切にし、対応して行く。	/	◎	◎	現在のコロナ禍において外出制限等はあるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の希望に応じて、対応している。また、「お墓参り、美容室に行きたい」など、利用者や家族の希望には、柔軟な対応に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は夜間のみ施錠している。いつでも訪問できるように開放している。現在はコロナ感染症対策として制限している。	◎	◎	○	事業所の玄関先には大きな樹木が植えられ、自然豊かな環境となっている。また、車で来訪する場合にも、玄関先まで行けるようになっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共有の空間は何時でも居心地良く過ごせる様に明るさや温度、清潔、物の配置など工夫している。壁に季節の花を飾ったり、掲示物を季節が感じられるものにしりして季節感を味わっていただくように努めている。	◎	○	○	フロアには畳スペースがあり、訪問調査日にもスペースに置かれた食台を活用して、昼食を摂っている様子を見ることができた。また、事業所内は掃除や消毒などが行き届き、清潔感のある空間となっている。さらに、季節の生花が生けられているほか、廊下の壁には利用者の日々の様子を撮影した写真を掲示している。さらに、利用者の今年の目標も一緒に掲示されている様子を確認することができた。加えて、事業所の窓からは外の田園風景が見え、四季の移り変わりを感ずることもできる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	南側の窓からは暖かい、明るい光が差し込んで風通しもよい。よく換気し気を配り、ゴミの処理には新聞紙を活用し、悪臭防止に努めている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	フロアの窓からは、田園風景が眺められ、四季折々の自然を感じる事ができている。気候が良い時は自然の風を感じて頂いたり、温かな日差しを浴びて頂いたり配慮している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	共有空間には畳の間とテーブルが3か所に分かれてある。それぞれ気の合う方とストレスを感じることが少ないようにその時々に応じて工夫している。廊下にもベンチや椅子を置いており、外景を眺めながら会話を楽めるようになっている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレ及び浴室は裏側にあり、共用空間からは直接見えないう工夫されている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に家族と話し合い、本人の使い慣れたもの、好みのものを使っていただくようにしている。本人が自分の家として居心地良く過ごす事ができるように家具の配置なども工夫している。状況が変わった時には配置の検討もしている。	○	/	○	居室には洗面台があり、いつも使用している櫛が置かれ、生活感をうかがうことができた。居室には、馴染みの物などを持ち込むことができ、テレビやイス、シルバーカーなどが置かれ、利用者に合わせて空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	廊下・トイレ等に手すりを設置している。その他に途中で休んで頂ける畳のスペースがある。利用者が自分のできる力をできるだけ使っていただけるように職員内で情報を共有して支援しようと努めている。	/	/	○	排泄後の処理を自分で行えるようトイレ内には、「ここをおして」と分かりやすく表示している。また、利用者の個人物と分かるように、杖には鈴を付けるなどの工夫もしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	日頃の利用者の行動を見守り、気付きがあれば情報を共有し、相談しながら対応を考える。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	共用空間の中に折り紙、塗り絵、雑誌、小説、新聞などいつでもだれもが手に触れるようにおいてあり、それぞれが思い思いに楽しめるように工夫している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員はフロアや玄関を施錠することはしないように理解している。いつでも自由に出入りできるように配慮しながら安全性も気を配っている。夜間は安全性を考慮して、玄関は施錠している。	◎	◎	◎	入社時の新人研修で接遇などを学ぶとともに、業務カンファレンスを活用して、日中に居室やユニットの出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を確認している。また、事業所では夜間のみ防犯のため、玄関等の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の中に施錠を望む方は今の所ない。色々な事件等もあり、安全面より不安に思われている方のことも考慮し、これからも話し合っていくたい。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者一人ひとりの行動は必ず気を配っており、その日その時の心理状態も把握するように注意している。常に見守り、安全には気を配っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	日頃より、1人ひとりの病歴・現病・服薬や生活上の注意する事などについて把握するように努めている。職員で常に情報を共有し、気になる症状があれば医療機関と相談しながら早め早めに対応するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状態の変化や異常のサインではないかと思われる症状は記録し、職員で話し合い、その時の必要に応じて医療機関に相談している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医による往診や医療連携看護師の時以外でも気軽に相談できる体制は出来ている。院長には24時間いつでも電話対応できるようにもっている心強い。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人や家族と相談の上、今までのかかりつけ医に継続して受診されている方もある。眼科や歯科等専門医での受診は職員が同行している場合もある。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医師により、緊急時にも適切な医療体制ができており、家族も安心されている。現場の職員としても安心できる。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	どういう状態で受診するか説明を行ってから受診している。又、結果報告も必ず行い、相談や今後の方針について話している。記録を適確に行い、職員間で情報を共有する。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院された際には、出来る限りお見舞いに行き、声かけを行い安心して治療して頂くようにしている。医療機関には状態を詳細に説明し、本人の不快に感じることを伝えていく。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関にはできる限り情報を提供して頂くように協力をお願いしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医療機関とは日頃より、入所希望者の状況を知らせて頂いたり、こちらの空き状況を知らせたり関係性は築けている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	医療連携看護師が1週間に1回訪問している。利用者一人ひとりの情報を伝えており、身体の状態はもちろん生活での注意する事など細やかな助言をしてもらう。何か不明な事も遠慮なく聞ける関係性ができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	医療機関は24時間対応して頂いているので、若い職員、夜勤者など不安が軽減されている。状態の変化に早く気づきなるべく深夜にならないように気をつけている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	利用者の状態に変化があればかかりつけ医に連絡し対応している。往診時や看護師の訪問時にまだなど気づいたときにすぐ相談するようにして早め早めの対応に気を配っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者の既往症を理解しており、服薬についてもどんな効果があるのかまた、副作用や特別な注意点についても知識を習得するように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬は係により個人別に朝・昼・夕、食前・食後等、きちんと分類している。誰にでもわかりやすいようにまた、職員以外が出入りできないようにきちんと管理している。誤薬にならないように日勤・夜勤が食事の際に準備し、服薬のタイミング時に必ず手渡しし、服用を確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	体調の変化や気づいたことは職員ですぐに話し合うようにしている。食事量や排泄の状況は記録して、日常的に体調の変化を見逃さないように努めている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	体調の状態に応じてその都度職員で話し合い、必要な時は医療連携看護師やかかりつけ医に相談している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に家族との話し合いの中で意向を聞き、方針は共有できている。状態の変化に応じてその時々で相談しながら方針の確認を行っている。	/	/	/	事業所には、「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明し、意向を確認している。利用者が重度化や終末期の支援が必要になった場合には、利用者や家族等だけではなく、職員、かかりつけ医、医療機関等の関係者を交えて話し合い、方針を共有している。また、法人の代表者が医師であり、ほぼ毎日事業所に来所しているため、その都度話し合いが持てる環境となっている。さらに、事業所では多くの看取り介護を支援しているものの、病院や他の施設に転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化・終末期については本人が望まれるより良い生活が送れるようにその時々で本人・家族・医療機関等関係者で話し合いながら方針の共有に努めている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	外部や内部研修において、看取りのことは知識は得ているが、実際になると看取り経験のない職員にはとても不安な事だと思っている。経験のあるものと相談しながら経験を重ねていってほしい。職員には利用者の思いを受け止め、本人や家族の納得のいく穏やかな最期を迎えられるように努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療的なことは介護職ではできない事は理解して頂いている。訪問看護を利用することも説明し、本人・家族の思いを尊重している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度化・終末期の対応についていろいろな研修に参加して知識を得るようにしている。職員間や医療関係者とも検討しより良く暮らせるように支援する。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	日頃より、日常的な報告をしたり、気軽に話し合える関係性が作れるように努めている。家族には安心して頂けるように話し合いを心がけている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症については毎年、流行する時期より前に職員の勉強会を行うようにしている。又、日頃より予防することを心がけるように指導している。コロナ感染症対策として職員全体で研修会も実施している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	対応マニュアルができており、フロア内のすぐに見れる場所に掲示してある。また、突然の急変にも対応ができるような体制はとれている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	年中、情報は気にしている。特に市内、近隣の市町などはいち早く情報が入る様にしている。昨年は利用者、職員共にインフルエンザが流行り、今後は気を付けたい。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行の情報をいち早く入手し、感染対策委員会を開催し、面会の制限やマスクの着用などお願いしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	作業をする一つ一つことに手洗いを行うように心がけている。何よりも外から感染を持ち込まないように職員が気を付けることが第一である。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日頃より、利用者となんでも話し合い、多くふれあえるように心がけており、一緒に生活し共に支えあう関係にて信頼関係を築いている。				コロナ禍以前は、年2回家族会を実施して、お花見や納涼祭に多くの家族の参加協力を得て、交流を図ることができていた。現在のコロナ禍において、家族会を実施することができないため、家族には電話連絡時やお小遣い持参時などを活用して、職員から利用者の生活の様子が分かるように報告をしている。管理者等は、コロナ禍の収束後には面会や家族会の再開を予定するとともに、県の感染対策の警戒レベルが緩和され、居室での10分程度の面会を再開し、利用者や家族に喜ばれている。また、毎月事業所便りの「蒼い月」を発行して、事業所内の様子を伝えるとともに、スナップ写真や手紙を添えて、送付することもある。また、事業所の事柄等は、手紙を書いてお知らせをしている。さらに、面会時や電話連絡時を活用して、職員は家族から気軽に相談できるような環境づくりにも努めている。今後管理者等はタブレットを活用しながら、オンラインやSNSで情報を伝えることも検討をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	誰にでも自然にいつでも変わらない笑顔で対応できるように日頃より身につくように気を付けている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会を年2回程度開催して参加頂いている。年々、県外の家族が増えており、なかなか行事への参加が困難になっている。昨年よりコロナ感染症対策として実施できていない。			○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月ホームたよりを送り、日常の様子をお知らせしている。又、手紙や電話、面会時などで近況や、身体の状態などお話ししている。コロナ感染症により、面会制限もあり日常の様子が少しでも伝えられるように心がけている。		◎		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	なんでも話して頂けるような関係を築いていけたらと思っている。ほとんどの方は気兼ねなく話して頂いて感謝している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族とともに本人の変化への理解、対応について話し合いながら一番良い方法を見つけていきたい。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	「蒼い月」という広報誌を各フロアごとに発行している。楽しみにされている家族もいて、職員の励みにもなっている。利用者全員やホームでの様子がわかる様に工夫している。			○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会の際に鉢の家族とも一緒にテーブルになる様に設定し、交流がはかれた。今後も工夫していきたい。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	その方にとって何が1番良い方法なのか一緒に話し合い、少しでも良い方法が見つかる様に努める。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	現在は面会の機会がないが、電話等で近況などお知らせし、話しやすい状況を作る様に気を配っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約、解約時には利用者、家族の意向を考慮し、十分な説明を行い、理解、納得していただくうえで契約、解約を交わしている。内容の変更などの際にはその都度説明を行い、書面での同意を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ほとんどが死亡や長期入院の場合で納得頂いている。長期入院の際もその後の相談は受けている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に契約書の説明を行っており、その場での同意を得たうえで書面による同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域住民には運営推進会議にも出席していただいております、いろいろ面で協力して頂いている。	/	◎	/	事業所では地域の草刈りや、年2回の地区の清掃活動に参加協力をしている。また、事業所前が夜に暗かったため、地域住民からの要望を受けて、外灯を点灯している。さらに、コロナ禍以前は、地元の小学校や保育園との交流をすることもできていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	保育園や小学校の運動会や発表会、夕涼み会など季節ごとの行事に参加させて頂いている。ボランティアでの交流や地域の清掃作業への参加など交流に努めている。現在は実施できていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の行事への参加の声掛けや花が咲いているなど教えてもらって見に行くなど地域の方々には温かく見守って頂いている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	利用者の利用の8割が町内であり、デイサービスに来られた方が気軽に面会に来られ墓の利用者共なじみの関係が築けている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	少し離れたところに近隣住民がおられ、散歩時や外出時に挨拶や会話するなど関係性を築けるよう努めている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の行事に積極的に参加し、もっと地域とのつながりが持てるようにし、利用者の生活が豊かになるようにしたい。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	地域の方の協力により、畑を提供して頂いている。毎年、キュウリやトマト、かぼちゃなどができ、草引き、畑仕事を一緒にしている。また、作物に成長を楽しみにスタッフと畑を見に行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣のGHとは運営推進会の交流もしており、今後もいろいろなイベントをしていきたいと話している。地域の方々にも日頃より何かと気にかけていただき感謝している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	運営推進会議には毎回、利用者・家族・市担当者・民生委員・区長・近隣住民・他事業所・GH職員など多数参加されており、助言や協力をいただいております。現在はコロナ感染症対策にて書面での開催になっている。	/	△	○	運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、公民館長、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となったものの、参加メンバーに会議資料を送付したり、近隣の参加者には資料の手渡しをしたりしている。また、地域住民等に資料を手渡しした場合には、意見を聞いている。さらに、今回の外部評価の結果は、書面で報告することを予定としている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の目的及び基本方針、又、外部評価の取り組み状況等について報告するよう努めている。評価前の準備や外部評価の内容、目標達成の内容等についても報告し、助言を頂いている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案等は真摯に受け止めて業務カンファレンスで話し合いをしたり、会社に報告したりしてその上で、日々の取り組みやサービス向上に活かし、次回の運営推進会議で状況や結果について報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	マンネリ化しないように外部講師を招いて勉強会をした。出席者から今後も催して欲しいとの意見があった。日程や時間帯については年度初めに予定を立て、事前に通知している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	2階・3階共にフロア内の見やすい場所に提示して、市役所には毎回議事録を提出している。又、職員には閲覧し、情報を周知、徹底している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人理念と事業所理念、又それに基づいた職員一人一人の個人目標をフロア内に掲示し、日々励んでいる。また、個人目標については自己評価した上で年2回、管理者と話し合い、次年度に繋げていけるように努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	運営推進会議(2か月に1回)や、毎月発行している蒼月だよりにおいて説明・報告している。	◎	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	代表者は職員個々の能力に応じた研修を受ける機会を与えて、より良いケアサービスができる様に人材育成に努めている。	/	/	/	医師である代表者は、ほぼ毎日利用者の往診等で事業所への来訪があり、職員は話しやすいと感じている。また、重要事柄は、法人の副部長に相談することもできる。さらに、職員は法人内の異動希望や希望休暇、夜勤の希望なども伝えることができる仕組みとなっている。加えて、法人内等で行う研修や事業所の勉強会等を活用し、職員のスキルアップにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	介護福祉士、介護支援専門員など資格取得のための時間が取れるように本人と相談しながら、シフトを組むなど働きやすい職場環境につとめている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務年数、経年数にこだわらず、個人の力量、努力などを把握している。介護職員処遇改善手当支給、法改正により給与が上げた。また、自分自身のスキルアップのために研修に積極的に参加している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県地域密着型サービス協会に加入しており、毎回研修会に参加し、市の連絡協議会にも積極的に参加し、同業者と交流できている。近隣のGHとは運営推進会議や行事に互いに参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者、職員のストレス軽減のため、代表者とは気軽に相談できる体制がとれている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待については社会問題にもなっており、ケアする側の意識も強い。不適切なケアについて具体的なことについて話し合うようにしている。	/	/	/	法人・事業所として、身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に職員間で話し合いや勉強会を実施している。委員会を中心として、職員には特にスピーチロックに注意するよう伝えている。また、職員は不適切なケアなどを発見した場合に、管理者や副ホーム長に報告する対応方法などを理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月1回は業務カンファレンス、ケアカンファレンスを開催しており、何でも話し合うようにしている。また、職員から報告があった場合は早急に情報を集め、話し合い適正にケアができるように改善する。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ケアカンファレンスでは利用者一人ひとりの状態を共有できるように話し合い、不審なことについては十分な情報を集めて、慎重な対応を心がける。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	年2回は個人面接を行っており、本人の心身の状態や勤務上の悩みなどを把握することに努めている。また、日頃より、表情や勤務時の様子、かかわり方など日常的に注意して観察するように心がけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	3か月に1回、身体拘束委員会を開催しており、その結果は職員に報告して周知徹底している。状態の変わった利用者の対応については多大S区で北居るのか、それがその方にとって適正なのかを話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束については必ず研修があり、みんなで考える機会が多い。日常のケアについてどんなことが適正でないのかを理解したうえで意識しながら対応するように努めている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今現在家族等から拘束や施設についての要望はない。今後あった時にはよく話し合い、理解して頂く。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	今年度の運営推進会議において、利用者の成年後見人に制度や事例などについて講演して頂いた。構成委員、職員共にいい機会になった。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	現在はまた相談等は受けていないが、今後社会的に必要な制度なので十分に理解しておきたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	地域包括支援センターは運営推進会議の構成委員でもあり、今後もなんでも相談していきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	毎年、全職員は消防士による救命講習を受講している。また、緊急時のマニュアルは作成しており、医療体制や事故発生時の対応など日頃より理解している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	毎年本部にて全職員が救命講習を受講をしている。また業務カンファレンス時に話し合いをして急変時に適切な対応ができるように努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告、ヒヤリハットなどすぐに報告している。その後全職員に回覧し、情報を周知徹底して再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケアカンファレンスでは利用者一人ひとりの状態について毎回話し合い、気付きや改善策など慣れることなく検討するように気を配っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情については職員に理解するようにその時々には指導しており、検討しながら対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	今の所、苦情はない。苦情が寄せられた場合は本部と相談したり市とも相談しながら改善するように努めたい。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	何事も話し合う必要があると考えている。皆様の意見を聞きながら改善するのが一番だと思う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	市役所から介護相談員の訪問が3か月ごとにある。利用者の様子を見たり、話をして要望や意見を聞くようにしていた。報告は職員で周知徹底している。運営推進会議にも毎回出席して頂いている。			○	事業所には意見箱を設置しているものの、意見が入られたことはないため、日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞いている。また、家族からは、面会時や電話連絡時等を活用して、意見や要望を聞くよう努めている。さらに、管理者は職員と年2回個別面談を行い、意見や要望を聞くとともに、日頃から気になる職員にはその都度声をかけて、意見等を聞くようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	誰にでも意見や要望、苦情等投函して頂ける様、事務所玄関に意見箱を設置している。運営推進会議にも出席して頂いている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や面会時は利用者や家族の意見を聞く良い機会となっている。ケアプラン見直しの際には必ず本人・家族の要望を聞く様に努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は事業所を訪れ、職員の意見や要望などを直接聞くように努めている。又、本部に行った際には気軽に話しかけ、困った事は無いか気を配っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	常に職員の様子や変化を見落とす事のないように注意している。何気ない会話を話しやすい環境を持つように心がけている。又、会議では自由に発言できるような環境作りに努めている。				

愛媛県グループホーム蒼月

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員全員が自己評価に取り組んでいる。又その結果をフロア内で話し合い、今後のケアの向上に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、ユニット毎に管理者を中心に作成している。自己評価の作成は職員の振り返りを促すとともに、職員間で課題等の話し合いもできている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議で報告するとともに、家族に送付して状況を伝えている。さらに、取組み状況のモニターの協力までには至っていないため、今後は家族や会議の参加メンバーにサービスの評価の取組みを理解してもらうとともに、モニターの協力を呼びかけるなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価をすることで自らのケアのあり方、フロアの方向性の確認及び改善点がみえてくる。この項目一つ一つと向き合ってケアの向上に努めた。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	話し合いをし、少しずつでも改善されるように努めた。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価の結果を市や運営推進会議メンバーなどと相談しながら、目標達成計画をきちんと取り組めるように努めた。	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員や運営推進会議メンバーなどと目標達成の取り組みについて話し合い、また、結果でどう改善されたか確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害の対応マニュアルはそれぞれ作成している。フロアに掲示しており、いつでもだれでも見れるようにしてある。内容を職員に周知徹底して、又、必要に応じて改正している。				年2回、日中や夜間帯などを想定して、避難訓練を実施している。コロナ禍以前は、避難訓練に地元の消防団にも参加協力してもらい、合同訓練を実施することもできていた。また、消防団には運営推進会議の会議録を送付するとともに、災害時は協力してもらえるよう連携体制を整備している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中、夜間においても誰がどう行動するか、いつも考えておくように指導している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や点検は南予防災に委託している。避難経路には障害物を置かないように配慮したり、備蓄品は定期的に点検したりし、災害に備えている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議を近隣のGHと交流しており、他の事業所の災害に他する姿勢や計画などについて話し合う機会はある。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	今年度は市から依頼があり、県主催の原子力防災訓練に参加した。実際の災害計画を実行し、30km圏外へ避難した。他の事業所も参加して頂き、話し合いの機会になった。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	経験や知識が少しずつ積み上げられているため地域に対して少しは情報の発信ができるのではないかと考えている。意欲的な職員もいるので今後取り組みたい。				事業所として、入居申込時に介護保険の相談を受ける程度に留まっており、積極的な地域の相談支援までには至っていない。管理者は、「地域のイベント等で介護相談の場を設けたい」と考えており、関係機関と協力をしながら実現できることを期待したい。また、事業所として、認知症カフェの開催相談を市行政にしたことはあるが、コロナ禍等において実現までには至っていない。さらに、法人・事業所として、市行政や地域包括支援センター等との協力を努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	面会に来られた方とか、入所申込みに来られた方と何気ない会話の中で相談に応じることはある。話を安心して帰られる方もおられ必要さを感じている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	認知症カフェや介護相談などのイベントは今後機会があれば取り組みたい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実践の受け入れに協力している。	○	以前高校生の職場体験の受け入れをした。利用者様も喜ばれており、職員の励みにもなるので今後もしていきたい。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	少しずつネットワークは広がっている。今後も努めていきたい。			○	